



# 未来の住まいづくり・まちづくり

## —松浦住まいづくり研究会—



市では、良質な住宅・魅力的な環境をつくる住まいづくりを通して、誰もが「住みたい」「住み続けたい」「住んでみたい」と思うまちづくりをすすめています。

このような中で、平成12年度に建築関連産業に従事する有志10人が集まって、地域の特性を生かし、気候や風土にあった、未来の住まいづくりやまちづくりを考える「松浦住まいづくり研究会」が発足しました。

特集では、これからを担う子どもたちのために、松浦らしい住環境を残していこうと取り組んでいる、同会の活動を紹介します。



松浦住まいづくり研究会ロゴ  
家の屋根の下に松浦の「M」をデザインし、海の青色、山の緑色、空の水色を使って松浦の住まいをイメージしています。



家を囲むように植えられたひゃーしの様子

現代の空調設備に依存した暮らしは、住まいを地域の自然環境から遮断してしまい、その結果、緑の少ない宅地が増え続け、乾いた住環境を作っています。

## 現代の暮らしと

### 住環境

松浦住まいづくり研究会は、松浦市における住まいづくりとまちづくりの方針策定や住まいづくりのネットワークをつくる人の輪づくりを目的に活動をスタートしました。

## 松浦らしい 住まいづくりとまちづくり活動

近くに視点を移すと、木陰が少ない公園や住宅地が増えてきています。

空調設備に頼ることが出来なかつた頃には、その地域の風を読み、樹木や生垣などで自然環境を住まいに上手に取り込んできました。

地球温暖化など環境問題が叫ばれている近年、生垣などで美しい景観をつくり、その中で快適に暮らす先人の知恵を生かした住まいづくりやまちづくりが注目されてきています。

### 松浦らしさを考える

同会は、主に「松浦型の住まい」のモデルづくりや松浦の景観チェックリストの作成、松浦らしい景観要素の調査、まちなみのバリアフリー調査、まちなみ景観に



バリアフリー調査の様子

対する意識啓発などの活動を行っています。

活動の中で、松浦市の住まいの中から松浦らしさを探り出す作業を行い、住居の周りに植えられた「ひゃーし」と呼ばれる高生垣を見つめました。

このひゃーしが、住まいに快適さを与えていることに着目し、この特性を生かした住まいづくりとまちづくりを活動の中心に置いています。

また、ひゃーしを中心とした活動は、まちづくりに関する意見交換を目的に開催された「平戸まちなみ・まちづくりデイスカッション」や、地域の特性をふまえた質の高い居住空間の整備などを目的とした「H O P E 計画全国大会シンポジウム」などでも紹介されています。

同会では、様々な取り組みやひゃーしなどのPRを行い、まちづくりの人の輪づくりや活動の拡大に取り組んでいます。